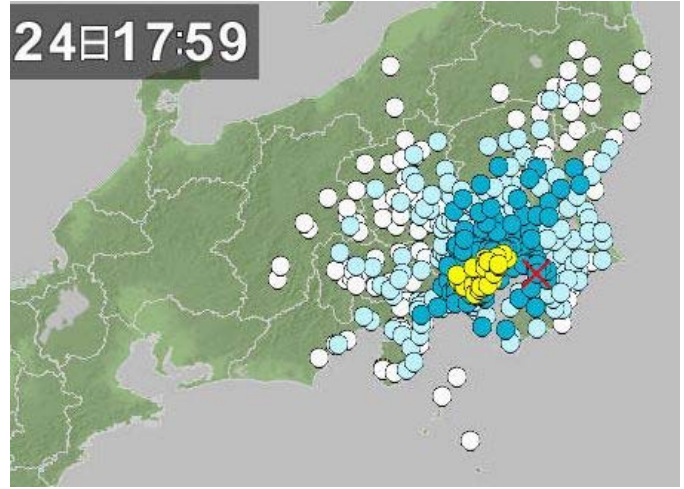


久しぶりに首都圏で震度4を観測しました

11月24日、18時頃に久しぶりに東京で震度4を記録する地震がありました。この地震の震源の深さは80km、マグニチュードは4.9と報告されています。

この地震について、首都圏直下大地震の予兆ではないかと週刊誌等で話題になっていますが、この地震は現在想定されている首都圏直下型地震とは異なる場所で発生したもので、地震学的には関係ありません。24日の地震は、下の図の④の場所で発生したものです。



実は政府が想定している首都圏直下型地震というものは、基本的には①、②、③のタイプ、つまりかなり浅い（浅いといっても深さ15kmから30km程度）を推定しています。

首都圏の下では複雑にプレート境界が存在しており、24日の地震はフィリピン海プレートの下側に潜り込んでいる太平洋プレートの上で発生したもので、いわゆる“地震の巣”と呼ばれる普段から地震活動度の高い領域で発生したものです。



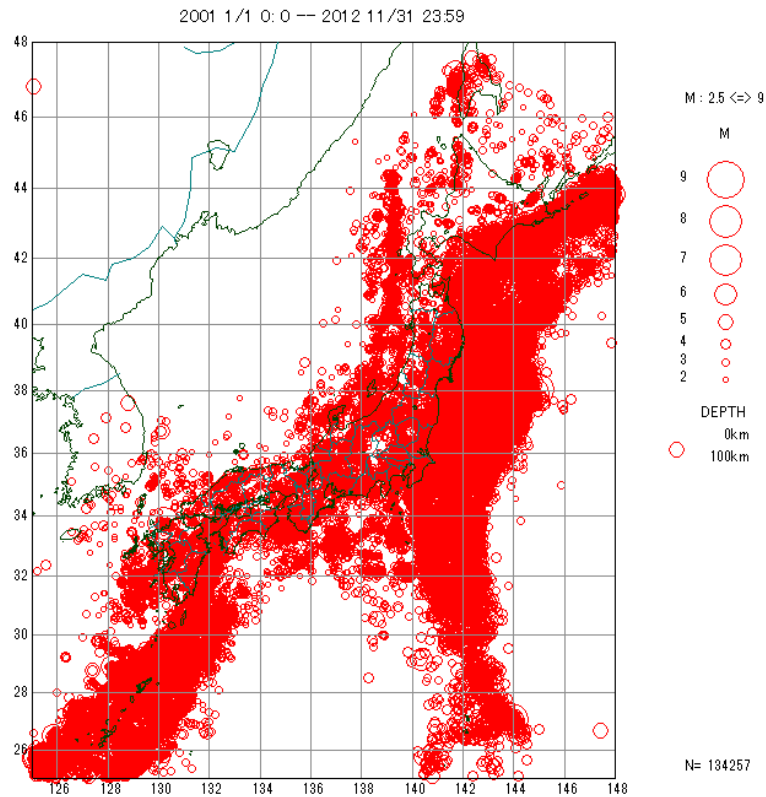
もともと深い所（今回の地震は深さ80km）での発生ですから、比較的広い範囲で揺れますが、震度そのものは大きくありません。地表から“遠い”という事が重要なファクターとなっています。上の図で左側の②が大正12年の関東大震災を引き起こした震源で、現在最も危惧しておりますのが、②の右側の部分です。この境界（フィリピン海プレートの上）が、これまでの想定より、8kmほど浅いのではないかとというのが最近の調査でわかり、そのために首都圏の想定震度が大きく（＝被害が大きくなる）なり、現在新しい被害想定を内閣府がまとめている所です。

ちなみに12月3日の時点で、地震活動度の解析でも、電磁気観測でも首都圏には顕著な異常は確認されておりません。

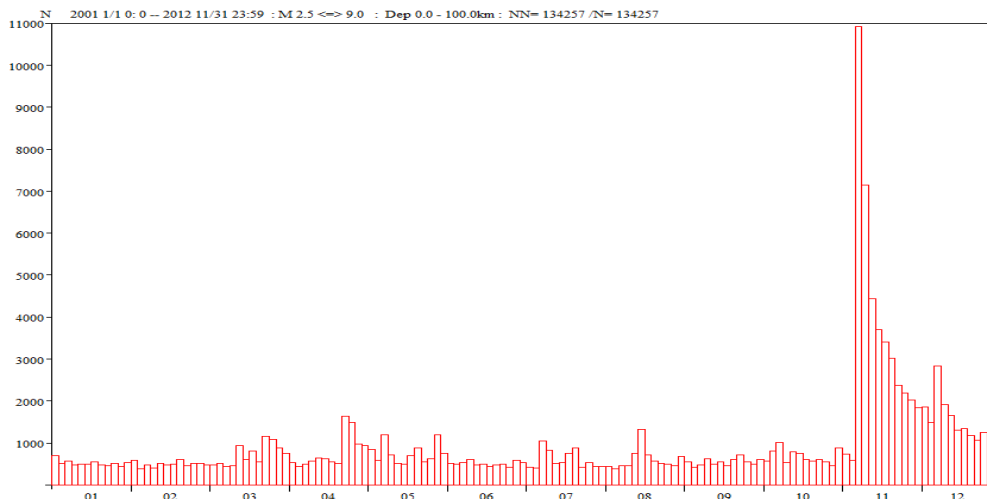
### 3. 1 1 後の地震活動の推移

昨年(2011年)の3.11以降、日本列島全体の地震活動の様式が大きく変わってしまい、地震活動の推移を過去の経験則から予測する事が極めて難しくなっています。これから何回かに分けて、現在の日本列島の状況について解説したいと思います。

下の図は2001年から2012年11月末(約12年間)までの地震活動を表したものです。



日本列島が見えなくなる位の地震が発生している事がわかります。また下は同じく2001年からの月別の地震発生数を示したものです(M2.5以上)。急激に地震数が増えているのが当然の事ながら2011年3月です。



いかに2011年3月以降の活動が活発であるかがわかってと思います。逆にこの事が予測を困難にしています。しかし、3.11の余震活動がかなり低下してきましたので、これからは過去の経験則も最大限活用して、地震活動の予測を行なっていきたいと思っています。